

知事に窮状を訴える

水俣病互助会の陳情団

水俣病紛争調停委員会は二日前十時からひらくが、これに先立って水俣病患者家庭互助会の渡辺会長ら五十一人は、一日午後県庁で寺本知事に会い、苦境を訴えて「調停案に患者への補償を入れるよう」陳情した。

新日窒水俣工場への患者一人平均三百万円の要求が拒否され、寺本知事に陳情したもの。

この日互助会の人たちは徹夜の座り込み覚悟で早朝から県庁に押しかけ、深水県議らが知事との面会をあつせん、正午すぎに登庁した知事と会った。

そのさい陳情団は「夫や妻を病気で失い、あすの生活にも困っている。工場廃液が病氣の原因だ。知事の英断で調停案に患者

補償を入れるよう努力してほしい」と訴え、なかには眼がしらをハンカチでふく婦人もいた。これに対し知事は「相手のある話であり、私個人で確答はできないが、あす二日の委員会で一応

議題にしたい」と答えた。また知事は三百万円の根拠や互助会の本心がいま補償の全額を要求しているのか、あるいはとりあえず見舞金程度でいいのかなど点について逆に陳情団に質したが、

互助会側からはつきりした説明はなかったといわれる。

なお陳情団は知事の努力に期待し、この日の夕方水俣市に帰った。